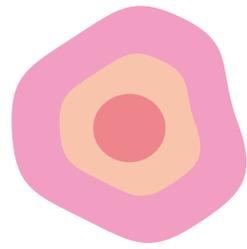


とやまファン
倶楽部

No.31

2017



CONTENTS



| | |
|--------------------|----|
| リレーエッセイ 30 / 神野 直彦 | 2P |
| 第22回とやまファン倶楽部会員交流会 | 3P |
| とやま賞 | 4P |
| 「夢の卵」育成事業 | 5P |
| 会員交流広場 | 6P |
| 富山県からのお知らせ | 7P |

「富士の夏の思い出」

神野 直彦さん



プロフィール

神野 直彦(じんの なおひこ)
日本社会事業大学学長、
東京大学名誉教授

1946年埼玉県生まれ。
1969年東京大学経済学部卒業、日産自動車を経て1981年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。大阪市立大学助教授、東京大学教授、東京大学大学院経済学研究科長・経済学部長、関西学院大学教授、地方財政審議会会長などを経て、現在日本社会事業大学学長・東京大学名誉教授。地方分権改革有識者会議座長、税制調査会会長代理、社会保障審議会年金部会会長、同左企業年金部会会長、同左資金運用部会会長、カーボンプライシングのあり方に関する検討会会長なども務める。
専攻は財政学。著書に『地域再生の経済学』(中央公論新社、2002年)、『財政学』(有斐閣、2002年)、『「分かち合い」の経済学』(岩波書店、2010年)、『日本の地方財政』(有斐閣、2014年)(共著)、『人間国家』への改革 参加保障型の福祉社会をつくる』(NHK出版、2015年)

屋を訪ねて、時を過ごすことにしている。

庄川に限らず、黒部川、常願寺川と急峻な山間から美しき海へと流れ落ちる川の谷間ごと営まれる富士の暮らしは、飛行機の機内から眺めると美しい。富士の人々が長い年月をかけて、育んできた温かな暮らしが空から推察できる。今では新幹線で富士を訪ねるけれども、その当時は飛行機を利用した。

夏の富士を訪れて帰路につくと、妻は誰に聞かせるでもなく「私の夏休みは、これで終わりね」と呟いたものである。それでも妻の表情は、憑き物が落ちたように優しくなっていて、私の心を癒してくれた。

きる。

私が富士を頻繁に訪れるのは、私の同級生である石井隆一知事の道案内の賜である。苦しい時に結ばれた友情は、決して壊れることがない。石井知事と私は単に同級生というだけでなく、分権改革など労苦を共にし、互いに互いの人生の責任を引き受けるようになったのである。待ち焦がれた春は楽しむ暇もないまま、忙しく富士は夏へ向かう。静寂の冬とは対照的に、立山の夏は生命の躍動する季節となる。私は石井知事に誘われて、暑き夏になると、富士の立山連峰の山ろくで開催される「とやま夏期大学」の講師を務めていた。

富士の夏は暑い。それでも立山連峰の緑の懐に抱かれると、涼しさが心を洗い清めてくれる。木々の囁きで眠りから覚めると、切り立った山の頂きから、霧雲が頬を伝う涙のように流れ落ちる。森の中に足を踏み入れると、自分の足音だけしか聞こえなくなる。

しかし、それは雪に抱かれた冬の静寂とはまったく違うことに、すぐ気づかされる。虫たちが踊りでて、鳥たちが競つように歌い出すからである。

生命の躍動する夏の富士を、よく私は妻と二人で、車を借りては、温泉巡りを楽しんだ。それも「こきりこ節」のゆったりとしたリズムに合わせてである。夏の富士を旅すると、思わぬドラマが演出される。

五箇山に向かうために、八尾を通り抜けようとすると、車がまったく動かなくなってしまう。「おわら風の盆」が開催されていたからである。しかし、それはそれで、当初の目的を諦めれば、望外の楽しみを味わうことができる。「おわら風の盆」とともに、古き趣き豊かな街並みの散策ができるからである。

鈴木忠志の演劇を鑑賞しようと利賀を目指すと、大事となる。対向車に出合うと、通り抜けることが不可能な山道を走らなければならぬからである。それだからこそ、鈴木忠志の凛とした姿に出迎えられる、観劇ができた時の喜びは「一入」となる。日本の原風景ともいえるべき散居村を巡りながら、城端、井波を旅すると、推理小説で殺人事件の舞台によく利用される所が多いことがわかる。それを訪ねるのも一興と、巡っていくと高岡に辿りつく。高岡に行くと、私は気に入っている古本



「となみ野」に生まれ育った写真家安念余志子は、「どんなに冬が長くても、春はやがてめぐりくる。だれのもとにも」と歌っている。雪の降る富士の街を歩くと、雪が街の喧騒を飲み込んでしまったように、いくら耳を澄ましても、何の物音も聞こえない。歩いてても歩いてても、静寂の世界は深まるばかりで、生ける者は自分一人だという錯覚に陥る。

春は光とともに訪れる。クリスマスはキリストの誕生日というわけではない。クリスマスはゲルマンの冬至の祭り、つまり太陽の再生を祝う祭りを、キリスト教が取り入れたといわれている。スウェーデンのクリスマスは、12月13日のルシア祭から始まる。寒き朝にサンタ・ルシアを歌うルシア祭は、光の祭りである。ルシアは光を意味する。明るさの単位であるルクスも、ルシアつまりラテンで光を意味するルシスに由来する。

孤独を感じる寒き冬は、嫌われる季節だけれども、夜の最も長い冬至を迎えると、明るい昼が確実に長くなり、「春はやがてめぐりくる」と信じられるようになる。それだからこそ人間は、苦しい時でも夜明けを信じて乗り越えることができる。



第22回 とやまファン倶楽部 会員交流会

TOYAMA FAN CLUB

乾杯



川田代表世話人

開会挨拶



石井知事 (財団理事長)

開会挨拶



桑山代表世話人

挨拶



宮腰衆議院議員 (国会議員代表)

お礼の言葉



稗苗県会議長

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部会員交流会」が7月19日(水)、都市センターホテル(東京)で約140名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。

会場内では、新入会員のご紹介や富山米新品種「富富富」などのPRのほか、カターレ富山グッズや大伴家持生誕1300年記念事業演劇公演のチケット、日本橋とやま館食事券などが当たるお楽しみ抽選会が行われました。

また、「とやま牛」や「富富富」の握り寿司をはじめ富山の新鮮な食材を使った料理や地酒を用意し、会員の皆様に富山の味を堪能していただきながら、終始和やかに皆さんの話の輪が広がりました。



懇談



富山米新品種「富富富」紹介
(県農林水産企画課)



新入会員の皆様紹介

お楽しみ抽選会



カターレ富山グッズプレゼント
(カターレ富山(株)森野社長が抽選)



日本橋とやま館食事券プレゼント
(石井理事長より贈呈)



大伴家持生誕1300年記念事業
演劇公演チケットプレゼント
(高岡市より贈呈)



「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念し、富山県ならびに日本の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設され、今回で34回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者、または富山県内在住者とし、学術研究、科学技術、文化・芸術、スポーツの分野において、顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体に対して、賞状、奨励金を贈呈して、その活動を奨励しております。

今年度の贈呈式は、5月30日（火）に富山国際会議場メインホールで行われ、学術研究部門で4名、スポーツ部門で1名の計5名の方々が受賞されました。

第34回受賞者

学術研究部門 医薬分野(薬学)

大阪府立大学 研究推進機構 21世紀科学研究センター NanoSquare拠点研究所 特別講師

中瀬 生彦 氏

ペプチド化学を用いた細胞内薬物送達と機能制御の基盤技術開発



学術研究部門 理工分野(蛋白質科学、生物物理学、生化学)

富山大学大学院理工学研究部(工学) 准教授

伊野部 智由 氏

Unstructured領域を介したプロテアソームによる蛋白質分解の分子メカニズム解明と分解制御技術の開発



学術研究部門 人文社会分野(日本語学、方言学)

広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 准教授

小西 いずみ 氏

富山県方言の文法についての言語地理学的・記述的研究



科学技術部門 (植物由来高付加価値機能材料)

富山県立大学工学部医薬品工学科 教授

竹井 敏 氏

植物の活用によるナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子電子材料の創出



スポーツ部門 (柔道)

ALSOK

田知本 遥 氏

リオデジャネイロ五輪金メダル獲得等 世界での活躍



選考委員長講評



石井理事長より授与



受賞記念講演

当倶楽部の会員の皆様などにご協力をいただきながら行った事業を紹介いたします。

「夢の卵」 育成事業



この事業では、「将来こんな職業に就きたい」という「夢の卵（将来の夢）」を作文にしてもらい、優秀作品を表彰して、その道の第一人者のもとへ派遣しています。今年度で14回を数え、小学生の部と中学生の部をあわせて2,494作品の応募があり、その中から選ばれた4名の子どもたちに夏休み期間中、夢に一歩近づいてもらうために、短期入門してもらいました。



小学生の部

入門
内容

小矢部市立石動小学校6年生
井上 萌々子さん

「子どもたちの健康と笑顔を守り 明るい未来を支える小児科医になりたい」という夢を抱いて、富山大学医学部小児科学教室に短期入門し、「子供を守る」という小児科医の使命を強く感じました。



周産母子センター長の吉田文俊先生と



新生児集中治療室の見学

入門
内容

立山町立利田小学校5年生
大島 小百合さん

「自然保護官になりたい」という夢を抱いて、立山自然保護官事務所に短期入門し、もっと多くの人に自然の大切さを知ってもらい、みんなで自然を守りたいという気持ちがさらに強くなりました。

自然保護官や
ナチュラリストと



立山室堂で
外来植物の除去



中学生の部

入門
内容

小矢部市立大谷中学校1年生
原 唯七さん

須藤齋先生の著書「0.1 ミリのタイムマシン」に出会い、「地質学者になりたい」という夢を抱いて、名古屋大学環境学研究科に短期入門し、過去の地球の姿をもっと知りたいと思いました。

夢を抱ききっかけ
となった地質学者の
須藤齋先生と



電子顕微鏡を操作して
微化石を観察



入門
内容

片山学園中学校2年
藤井 柚衣さん

「地域づくりに貢献する警察官になりたい」という夢を抱いて、富山県警察本部に短期入門し、科学捜査研究所で働きたいと改めて思いました。

県警の皆さんと



科捜研の
ポリグラフ検査



会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部を紹介～

今年度の会員交流会(7月19日(水)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp>)に掲載させていただいております。

新幹線が開通し、東京から伺うのに便利になり、嬉しく思います。しかし、これまで東京から近くなると駅前が東京と同じ顔になり、街が東京化して来て、寂しい気持ちになってしまうことが多くありました。富山の良さが侵食されないように、皆さまよろしく願いいたします。

古稀を迎え、振り返れば関西に出て来て半世紀を超えました。大阪・茨木市の山間部で森林保全ボランティアをやっています。茨木の里山を見て思うのは、やはり故郷の田畑であり山々です。

田植えの頃の水田に映る僧ヶ岳や立山連峰。夏、宮野山から見る稲穂の上を吹き渡る風に揺れる緑黄の絨毯。その向こうにきらきら光る富山の海。

私にとって、故郷の情景は今でも日本一です。(黒部出身)

道路より街並みを、田園景観の保全を大切にしていきたい。

“田園発港行き自転車”ではないが、県全域を自転車で廻れるようにしたらいかかな。41号の旧道の利用など、コンクリートで固める開発はダメ。

神通川の土手を中学校の帰り道歩き、見上げた冬の立山連峰は神々しさを溢れていました。

人生の最期は、立山連峰が見える地で迎えたいと思っています。

中学校の同期の仲間と会うたびに身近に感じます。

富山県の魅力は、何といても、美しく大きな自然と、そこに育まれた新鮮な食材、そして素朴な人情です。

数奇なコト、モノに走らず、その王道を行ってほしいと切望します。

幼少の頃「越中富山の薬屋さん」と歌いながら御馴染みの薬箱を父母が使っていました。海を渡り、父の仕事の関係で旧満州長春から奉天まで、薬は我が家の大切なものでした。

あれから年を経て、引き揚げでの凄まじい体験と望郷の念、辿り着いた内地では皆様とも同感できる戦後の生活を味わいました。

父の生家が軽井沢でしたので、気候が似ていたのが幸いし、自然の中で育ち、上京してから富山へ新幹線に乗車できたのは夢の中の夢。とても幸せでした。在京の富山出身の方も友人におります。いつまでも交流が続くことを望んでおります。

富山では、無名の一膳飯屋でも、最高のお魚料理が出て来ました。この心意気が嬉しく、心に焼き付いています。

最も純粋な形で残っている富山の味に接した時、富山県を身近に感じます。それは、イカの黒作りと、かぶら寿しです。全国を歩いて、似た様な食べ物はありますが、富山のイカの黒作りと、かぶら寿しは絶品です。この本物の味は富山県にしかありません。

熊本地震からやっと1年2か月が経ちました。まだまだ揺れますし、やっと解体が始まった建物も沢山です。私方はお陰様でほぼ日常になり、インテリアデザイン、講演、セミナーなどの仕事も戻りつつあります。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

東京駅にシロエビのお店ができました。富山がだんだんメジャーになっていきますね。うれしいことです。

「我が町 ふるさと富山 “山あり、海あり、そして何より人情あり”」

先日、久しぶりに帰郷しましたが、子供の頃に育った遊んだ町が小さく感じ、通る人もなく、かつての賑わいもなく、大変寂しく感じました。

でも、故郷富山は永遠の「ふるさと」です。

「夢物語」

水力発電量日本一の富山県。地熱、風力等、他の自然エネルギー開発に力を入れ、自然エネルギー県としてアピールできないものではないでしょうか。

未来のカタチを目に見えるものにできれば富山の存在感を大きくできると思います。

昨年、富山市議会は、いち早く全国的に有名になりました。二度とこんなことが起こらない様に。



富山県からのお知らせ

富山の新しいブランド米 「富富富」(ふふふ)平成30年秋、デビュー



平成30年秋、本格デビューする富山米の新品種「富富富」(ふふふ)。「富山の水」「富山の大地」「富山の人」が育てた、富山づくしの新しい米です。今年、実証ほ場で生産された「富富富」は順調に実って収穫を迎え、10月～11月を中心に県内の各種イベントで限定販売されたほか、現在、県のアンテナショップで数量限定販売されています。「粒がしっかりしている」「甘味が強い」などと味への評価は上々で、「米どころ富山」を代表するブランド米となるべく、期待はますます高まっています。

新品種の開発

「富富富」開発に至る経過は平成15年にさかのぼる。猛暑による品質低下が全国的に問題となる中、県は解決に向けたプロジェクトをスタートした。中心となって開発を担ったのが県農林水産総合技術センター内の農業研究所だ。

暑さに強い遺伝子を特定し、その性質をコシヒカリに受け継がせるよう交配。約3000個体の中から①高温に強い②草丈が短く倒伏しにくい③いもち病に強い、という3つの特性を合わせ持つ最も優秀な1系統として「富山86号」が選ばれ、今年3月に名称を「富富富」に決定した。

今年度の取組み

平成30年のデビューを前に今年、県内23カ所(約7ヘクタール)で試験栽培された「富富富」は、天候不順の影響もなく順調に実り、およそ38トンが収穫された。このうち半分を県アンテナショップや各種イベントでの限定販売に、残りは食味の評価を得るために試食・PR用に活用し、来年度の販売戦略につなげる。

「富富富」の初めての販売イベントは10月7日、富山市のグランドプラザで開かれた。当初計画では限定600袋を予定していたが、想定を上回る多くの人々が詰め掛け、急きょ400袋を追加。わずか30分で計1000袋を完売した。おにぎりの試食会では「粒がしっかりしている」「甘味が強い」といった感想が来場者から聞かれ、期待の新品種の販売は上々のスタートを切った。会場で石井隆一知事は「食べたら『ふふふ』と笑顔になってもらえるはず」と述べた。

美味しく、高品質な「富富富」を生産するため、生産者の登録制を導入し、一定の要件により、品質と食味の向上に意欲的な生産者の募集・登録を進め、「富富富」のブランド力を高めていく。



9月13日魚津市実証ほ場での「富富富」初収穫

「富富富」名称に込めた思い

- 富山の水、富山の大地、富山の人が生み出した富山づくしのお米。
- 食べた後の幸せな気持ち(ふふふ)を表しています。
- 「富」は、豊かさやめでたさにつながります。



10月7日限定販売記念イベント＝グランドプラザ

富富富の特徴

- ゆたかな旨みの広がるお米**
 - ①粒揃いが良く、きわだつ旨みと甘み。
 - ②炊き上がりの香りと一粒一粒のつやの良さ。
 - ③生産者を限定し徹底した栽培管理で、安全・安心を追求。
- 暑さに負けない高品質なお米**
 - ①高温の夏でも白未熟粒が少ない。
 - ②草丈が短く、倒伏しにくい。
 - ③いもち病に強く、農薬の使用量が節減できる。

「富富富」を応援しよう！ 県がアンバサダー募集

県は「富富富」を応援する「アンバサダー」を募集している。「富富富」のホームページにアクセスし、専用フォームに氏名や住所、連絡先などを入力して登録する。

登録者全員に試食イベントや限定販売のスケジュールをいち早く伝える自動配信メールが届く。県農林水産企画課は「来年のデビューに向けて、多くの県民に富富富の応援団になってもらいたい」と呼び掛けている。



●「富富富」ホームページ
<https://fu-fu-fu.jp>

富富富

検索

平成30年秋に本格デビュー

<平成29年度>

実証栽培

米穀店等による評価

限定販売

<平成30年度>

一般栽培開始

デビュー・本格販売

ふふふ
「富富富」
限定販売中

■アンテナショップ

- ◎とどやま (富山市新富町1-2-3CICビル1F)
- ◎日本橋とやま館 (東京都中央区日本橋室町1-2-6日本橋大栄ビル1F)
- ◎有楽町いきいき富山館 (東京都千代田区有楽町2-10-1東京交通会館B1F)

1日あたりの販売数を限定、売り切れ次第終了!

TOYAMA FAN CLUB



問合先

■事務局

公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL076-444-2000 / FAX076-444-2001

E-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

■連絡所

富山県総合政策局企画調整室

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7

TEL076-444-4493 / FAX076-444-3473

富山県首都圏本部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL03-5212-9030 / FAX03-5212-9029

富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL06-6445-2811 / FAX06-6445-2611

富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階

TEL052-261-4237 / FAX052-263-7308